

6月19日 使徒言行録4章13～31節 今日の説教から

説教題：「内緒になんてできない！」

今日の聖書箇所は、ペテロとヨハネがいやしの業を行いながらイエス様の復活を証したことによって逮捕された場面から続いています。彼らは尋問される中で、「これ以上イエスの名で何も話すな」との命令を受けますが、「私たちが従うべきなのはあなた方人間の言葉か、それとも神の言葉か」と反論し、「わたしたちは、見たことや聞いたことを話さないではられない」と、心の底からあふれ出すようにイエス様の証しを行っていると語っています。

今日の詩編69編にも、後半の23節以降の言葉では特に驚くほど正直な「心の底からの叫び」が記されています。「どうにかしてあいつが苦しむようにして欲しい」「悪には悪をもって報いとしてください」「あいつを命の書から抹殺してください」。祈りの中に「抹殺」なんて言葉が出てくるのは、相当な恨みがあるからでしょう。原文には人を「殺す」という意味は含まれていないのですが、命の書から名前が削除されるということは終末における滅びを意味します。そのために抹殺と翻訳したのでしょう、それほどまでに強い念が込められていることをこの祈りからは読み取ることが出来ます。

実際の所、それでいいのかもしれませんが。時に私たちは祈る際に、「上手な言葉で祈ろう」「聞きやすい言葉で祈ろう」と考えてしまうものですが、そのような理性による祈りではなく、衝動に突き動かされるように祈る「本能の祈り」「心の底からの祈り」であっても、神さまはそれを受けとめてくれます。どんな祈りの時にもそうすべきだとは言いませんが、神様に向かって静かに祈る時は、心の中のすべての思いをそのまま神様に委ねていいのです。

この詩編を歌った詩人は、心の底からの恨みつらみを神様に正直に伝えていきます。今日の使徒言行録ではパウロとヨハネが、逮捕されて尋問されているにもかかわらず「イエス様のことを話さずにはられない」と断言しています。偉大な詩人であっても、十二弟子の筆頭であっても、そこにあるのは私たちと変わらない「普通の人」の姿なのです。イエス様を三度否んだペテロも、怒りっぽくてイエス様に叱られるヨハネも、「目を覚ましていなさい」と言われても眠ってしまう弟子たちも、私たちと同じく人間としての本能から逃れることの出来ない普通の人間なのです。彼らが私たちと変わらない普通の人なのですから、彼らが行った宣教の業も、弟子たちに特別な力が与えられていたから可能だったわけではありません。それはやはり神様の業であり、私たちにも同じように、彼らと同じことが出来る力が与えられているのです。耳を澄ませてみれば、私たちにも心の底からイエス様のことを「内緒になんてできない！」「イエス様のことを話したい！」と湧き出る思いを見つけることができるのではないのでしょうか。それが、私たちにそそがれた聖霊によって与えられている力なのです。

わたしは、イエス様のことを誰かに伝えること、この「宣教」という業は私たちキリスト者の「理性的な業」であると理解していました。ただ、それだけではなく、心の底からの「イエス様のことを話さずにはられない！」という本能の業、理性だけでは説明できない思いが、私たちの業を支えてくれているのだと思います。神様によって日々の業を支えられる喜びを胸に、今週一週間の、これからの歩みを共に進めていきましょう。

今日の説教箇所：使徒言行録4章13～31節

- 13:議員や他の者たちは、ペトロとヨハネの大胆な態度を見、しかも二人が無学な普通の人であることを知って驚き、また、イエスと一緒にいた者であるということも分かった。しかし、足をいやしていただいた人がそばに立っているのを見ては、ひと言も言い返せなかった。そこで、二人に議場を去るように命じてから、相談して、言った。「あの者たちをどうしたらよいだらう。彼らが行った目覚ましいしるしは、エルサレムに住むすべての人に知れ渡っており、それを否定することはできない。しかし、このことがこれ以上民衆の間に広まらないように、今後あの名によってだれにも話すなと脅しておこう。」そして、二人を呼び戻し、決してイエスの名によって話したり、教えたりしないようにと命令した。しかし、ペトロとヨハネは答えた。「神に従わないであなたがたに従うことが、神の前に正しいかどうか、考えてください。わたしたちは、見たことや聞いたことを話さないではいられないのです。」議員や他の者たちは、二人を更に脅してから釈放した。皆の者がこの出来事について神を賛美していたので、民衆を恐れて、どう処罰してよいか分からなかったからである。このしるしによっていやしていただいた人は、四十歳を過ぎていた。
- 23:さて二人は、釈放されると仲間のところへ行き、祭司長たちや長老たちの言ったことを残らず話した。これを聞いた人たちは心を一つにし、神に向かって声をあげて言った。「主よ、あなたは天と地と海と、そして、そこにあるすべてのものを造られた方です。あなたの僕であり、また、わたしたちの父であるダビデの口を通し、あなたは聖霊によってこうお告げになりました。『なぜ、異邦人は騒ぎ立ち、／諸国の民はむなしいことを企てるのか。地上の王たちはこぞって立ち上がり、／指導者たちは団結して、／主とそのメシアに逆らう。』事実、この都でヘロデとポンティオ・ピラトは、異邦人やイスラエルの民と一緒にあって、あなたが油を注がれた聖なる僕イエスに逆らいました。そして、実現するようにと御手と御心によってあらかじめ定められていたことを、すべて行ったのです。主よ、今こそ彼らの脅しに目を留め、あなたの僕たちが、思い切って大胆に御言葉を語るができるようにしてください。どうか、御手を伸ばし聖なる僕イエスの名によって、病気がいやされ、しるしと不思議な業が行われるようにしてください。」祈りが終わると、一同の集まっていた場所が揺れ動き、皆、聖霊に満たされて、大胆に神の言葉を語りだした。

詩編2編1～3節

- 1:なにゆえ、国々は騒ぎ立ち／人々はむなしく声をあげるのか。なにゆえ、地上の王は構え、支配者は結束して／主に逆らい、主の油注がれた方に逆らうのか「我らは、枷をはずし／縄を切って投げ捨てよう」と。